

## テモテへの第二の手紙

### 第一章 神の御旨により、キリスト・イエス

にあるいのちの約束によって立てられたキリスト・イエスの使徒パウロから、愛する子テモテへ。

父なる神とわたしたちの主キリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安とが、あなたにあるように。

三わたしは、日夜、祈の中で、絶えずあなたのことを思い出しては、きよい良心をもって先祖以来つかえている神に感謝している。四わたしは、あなたの涙をおぼえており、あなたに会って喜びで満たされたいと、切に願っている。五また、あなたがいだいている偽りのない信仰を思い起している。この信仰は、まずあなたの祖母ロイスとあなたの母ユニケとに宿ったものであったが、今あなたにも宿っていると、わたしは確信している。六こういうわけで、あなたに注意したい。わたしの按手によって内にいただいた神の賜物を、再び燃え立たせなさい。七というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。八だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすることや、わたしが主の囚人であることを、決して恥ずかしく思ってはならない。むしろ、神の力にささえられて、福音のため

に、わたしと苦しみを共にしてほしい。九神はわたしたちを救い、聖なる招きをもって召して下さったのであるが、それは、わたしたちのわざによるのではなく、神ご自身の計画に基き、また、永遠の昔にキリスト・イエスにあってわたしたちに賜わっていた恵み、一〇そして今や、わたしたちの救主キリスト・イエスの出現によって明らかにされた恵みによるのである。キリストは死を滅ぼし、福音によっていのちと不死とを明らかに示されたのである。二わたしは、この福音のために立てられて、その宣教者、使徒、教師になった。三そのためにまた、わたしはこのような苦しみを受けているが、それを恥としなさい。なぜなら、わたしは自分の信じてきたかたを知っており、またそのかたは、わたしにゆだねられているものを、かの日に至るまで守って下さることができると、確信しているからである。四あなたは、キリスト・イエスに對する信仰と愛とをもって、わたしから聞いた健全な言葉を模範にしなさい。五そして、あなたにゆだねられている尊いものを、わたしたちの内に宿っている聖霊によって守りなさい。

六あなたの知っているように、アジアにいる者たちは、皆わたしから離れて行った。その中には、フゲロとヘルモゲネもいる。七どうか、主が、オネシポロの家にあわれみをたれて下さるように。彼はたびたび、わたしを慰めてくれ、またわたしの鎖を恥とも思わないで、一七ロー

マに着いた時には、熱心にわたしを捜しまわった末、尋ね出してくれたのである。「ハどうか、主がかの日に、あわれみを彼に賜わるように。——彼がエベソで、どれほどわたしに仕えてくれたかは、だれよりもあなたがよく知っている。」

第二章 「そこで、わたしの子よ。あなたは

キリスト・イエスにある恵みによって、強くなりなさい。二そして、あなたが多くの証人の前でわたしから聞いたことを、さらにほかの者たちにも教えることのできるような忠実な人々に、ゆだねなさい。三キリスト・イエスの良い兵卒として、わたしと苦しみを共にしてほしい。四兵役に服している者は、日常生活の事に煩わされてはいない。ただ、兵を募った司令官を喜ばせようと努める。五また、競技をするにしても、規定に従って競技をしなければ、栄冠は得られない。六労苦をする農夫が、だれよりも先に、生産物の分配にあずかるべきである。七わたしの言うことを、よく考えてみなさい。主は、それを十分に理解する力をあなたに賜わるであろう。

八ダビデの子孫として生れ、死人のうちからよみがえったイエス・キリストを、いつも思っていたなさい。これがわたしの福音である。九この福音のために、わたしは悪者のように苦しめられ、ついに鎖につながれるに至った。しかし、神の言はつながらてはいない。一〇それだから、わたしは選ばれた人たちのために、いっさいの

ことを耐え忍ぶのである。それは、彼らもキリスト・イエスによる救を受け、また、それと共に永遠の栄光を受けるためである。二次の言葉は確実である。「もしわたしたちが、彼と共に死んだなら、また彼と共に生きるであろう。三もし耐え忍ぶなら、彼と共に支配者となるであろう。もし彼を否むなら、彼もわたしたちを否むであろう。四たとい、わたしたちは不真実であっても、彼は常に真実である。彼は自分を偽ることが、できないのである」。

一四あなたは、これらのことを彼らに思い出させて、あなたの益もなく、聞いている人々を破滅におとし入れるだけである言葉の争いをしないように、神のみまえておごそかに命じなさい。一五あなたは真理の言葉を正しく教え、恥じるところのない錬達した働き人になって、神に自分をささげるように努めはげみなさい。一六俗悪なむだ話を避けなさい。それによって人々は、ますます不信心に落ちていき、七彼らの言葉は、がんのように腐れひろがるであろう。その中にはヒメナオとピレトとがいる。八彼らは真理からはずれ、復活はすでに済んでしまったと言いい、そして、ある人々の信仰をくつがえしている。九しかし、神のゆるがない土台はすえられていて、それに次の句が証印として、しるされている。「主は自分の者たちを知る」。また「主の名を呼ぶ者は、すべて不義から離れよ」。一〇大きな家には、金や銀の器ばかりではなく、

木や土の器もあり、そして、あるものは尊いことに用いられ、あるものは卑しいことに用いられる。三もし人が卑しいものを取り去って自分をきよめるなら、彼は尊いきよめられた器となって、主人に役立つものとなり、すべての良いわざに間に合うようになる。

三そこで、あなたは若い時の情欲を避けなさい。そして、きよい心をもって主を呼び求める人々と共に、義と信仰と愛と平和とを追い求めなさい。三愚かで無知な論議をやめなさい。それは、あなたが知っているとおりに、ただ争いに終るだけである。二四主の僕たる者は争ってはならない。だれに対しても親切であつて、よく教え、よく忍び、二五反対する者を柔和な心で教え導くべきである。おそらく神は、彼らに悔改めの心を与えて、真理を知らせ、二六一度は悪魔に捕えられてその欲するままになつていても、目ざめて彼のわなからのがれさせて下さるであらう。

第三 三章 一しかし、このことは知っておかねば

ならない。終りの時には、苦難の時代が来る。二その時人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしめる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、三無情な者、融和しない者、そしめる者、無節制な者、粗暴な者、善を好まない者、四裏切り者、乱暴者、高言をする者、神よりも快楽を愛する者、五信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるのである。

う。こうした人々を避けなさい。六彼らの中には、人の家にもぐり込み、そして、さまざまの欲に心を奪われて、多くの罪を積み重ねている愚かな女どもを、とりこにしている者がある。七彼女たちは、常に学んではいるが、いつになつても真理の知識に達することができない。八ちやうど、ヤンネとヤンブレとがモーセに逆らつたように、こうした人々も真理に逆らうのである。彼らは知性の腐つた、信仰の失格者である。九しかし、彼らはそのまま進んでいけるはずがない。彼らの愚かさは、あのふたりの場合と同じように、多くの人に知れて来るであらう。

一〇しかしあなたは、わたしの教、歩み、ころざし、信仰、寛容、愛、忍耐、二それから、わたしがアンテオケ、イコニオム、ルステラで受けた数々の迫害、苦難に、よくも続いてきてくれた。そのひどい迫害にわたしは耐えてきたが、主はそれらいつさいのことから、救い出して下さつたのである。三いったい、キリスト・イエスにあつて信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。三悪人と詐欺師とは人を惑わし人に惑わされて、悪から悪へと落ちていく。四しかし、あなたは、自分が学んで確信しているところに、いつもとどまつていなさい。あなたは、それをだれから学んだか知っており、五また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によつて救に至る知恵を、あなたに



与えらる書物であることを知っている。一六聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであつて、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。一七それによつて、神の人が、あらゆる良いわざに對して十分な準備ができて、完全にととのえられた者になるのである。

第四章 一神のみまえと、生きてゐる者と死んだ者とをさばくべきキリスト・イエスのみまえで、キリストの出現とその御国を思い、おごそかに命じる。

二御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。三人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、四そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれていく時が来るであろう。五しかし、あなたは、何事にも憤み、苦難を忍び、伝道者のわざをなし、自分の務を全うしなさい。六わたしは、すでに自身を犠牲としてささげている。わたしが世を去るべき時はきた。七わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。八今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。九かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるのであらう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるのであらう。九わたしの所に、急いで早くきてほしい。一〇デマスは

この世を愛し、わたしを捨ててテサロニケに行つてしまひ、クレスケンスはガラテヤに、テトスはダルマテヤに行つた。二ただルカだけが、わたしのもとにゐる。マルコを連れて、一緒にきなさい。彼はわたしの務のために役に立つから。三わたしはテキコをエベソにつかわした。四あなたが来るときに、トロアスのカルボの所に残しておいた上着を持ってきてほしい。また書物も、特に羊皮紙のを持ってきてもらいたい。五銅細工人のアレキサンデルが、わたしを大いに苦しめた。主はそのしわざに對して、彼に報いなさるだろう。六あなたも、彼を警戒しなさい。彼は、わたしたちの言うことに強く反對したのだから。七わたしの第一回の弁明の際には、わたしに味方をする者はひとりもなく、みなわたしを捨てて行つた。どうか、彼らが、そのために責められることがないように。八しかし、わたしが御言を余すところなく宣べ伝えて、すべての異邦人に聞かせるように、主はわたしを助け、力づけて下さつた。そして、わたしは、しの口から救ひ出されたのである。九主はわたしを、すべての惡のわざから助け出し、天にある御国に救ひ入れて下さるのであらう。栄光が永遠から永遠にわたって主にあるように、アアメン。

一テブリスカとアクラとに、またオネシポロの家に、よろしく伝えてほしい。二コエラストはコリントにとどまつており、トロピモは病氣なので、ミレトに残してきた。

